もくじ
令和６年度規登録文化財　千住関連資料21件が一挙登録…P1　はい　文化財係です48
伊興遺跡出土の木簡（上）…P2　お化け煙突60年追録⑤空襲…P4

足立史談
第687号
2025年５月15日
足立区立郷土博物館内
足立史談編集局
〒120-0001
東京都足立区大谷田5-20-1
ＴＥＬ 03-3620-9393
ＦＡＸ 03-5697-6562

SENJU JUKU 400th since 1625

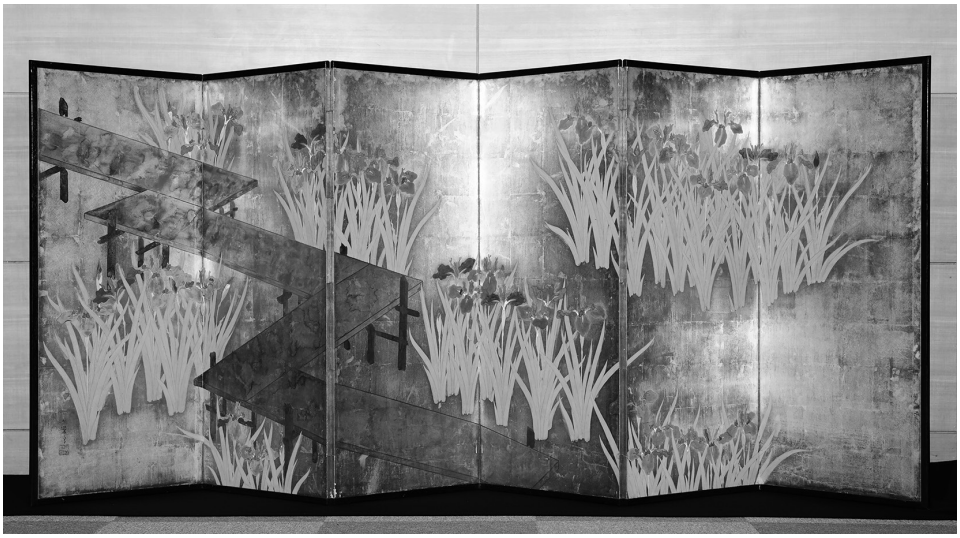
令和6年度　登録文化財

千住関連資料21件が一挙登録！

文化財係

令和七年は、寛永二年（一六二五）に千住宿が成立してから四〇〇周年にあたります。そこで、令和六年度は、千住に関係した資料二一件を文化財登録しました（次頁表参照。なお本文中の№は表№に対応しています）。

今回は、これらの文化財について簡単にご紹介いたします。



（写真１）№四　村越向栄「八橋図屏風」　登録有形文化財（絵画）

【絵画】リニューアルオープンした博物館が「美術博物館」をキーワードにしているように、近年、足立区内で美術資料の発見が相次いでおり、注目が高まっています。今回登録された絵画もそうした資料のひとつです。

新規登録された絵画八件の内、建部巣兆（№一）、村越其栄・向栄父子（№二・四～六）、中野其豊（№八）の四人は、千住に暮らしながら作品を生み出した絵師です。それぞれ様々な画題を見事に描いており、力量の高さがうかがえます。「（写真１　№四　八橋図屏風）博物館リニューアル企画展「香り立つ琳派の美」展にて展示中　６月29日まで」

一方、著名な文人である谷文晁や酒井抱一は、千住宿から比較的近距離にある下谷（台東区）で生活しており、千住宿で開催された「千住酒合戦」に参加し、作品を残しました（№七）。

酒井抱一は、「江戸琳派」の祖と言われ、村越其栄・向栄父子、そして中野其豊はその系譜をひき、近年、「千住の琳派」として位置付けられています。

また、幕府お抱えの狩野派の技法を千住掃部宿の旧家出身者が学習していたことを示す文化財も登録されています（№三）。

千住には富裕な旦那衆が多く存在し、彼らは絵師をはじめとした文化活動を物心両面で支え、さらに自らも文化活動をしていました。まさに千住の旦那衆の日常生活に文化活動が溶け込んでいたのです。そして、今回登録された資料は、その所産といえます。

【書跡】扁額「鶴浯亭」（№九）は、伊達素庵という庄内藩士（山形県鶴岡市）の作品で、素庵は江戸で市川米庵に書を学んだ書家でもありました。

【古文書】「大久保家文書」（№一〇）と「横山家文書」（№一一）は、紙問屋に伝来した文書です。「大久保家文書」に含まれる「千住宿四丁目起立之事」という資料には、千住宿が寛永二年に成立したことが記されています。また「横山家文書」は、近代文書も多く残っており、近代の千住の様子を知る上でも重要な文書です。

「石出家文書」（№一二）は、数の少ない一八世紀以前の資料が複数残っている点で貴重です。また、千住宿周辺の絵図なども含まれています。

「福島家文書　付、福島憲太郎氏筆写・複写資料」（№一三）と「中嶋家文書」（№一四）は、青物問屋に伝来した文書で、千住市場の様子を詳細に追うことのできる資料です。また、中嶋家の当主は、書家の中村不折の門下であり、その関係で不折関係の書状なども残さ

れています。

【歴史資料】松尾芭蕉句碑「物言えば唇寒し秋の風」（№一五）と「西森神社之碑」（№一六）は千住神社（千住宮元町二四―一）に建っています。前者は、慶應三年（一八六七）八月十五日に千住の人々が建てたもので、幕末の動乱期に千住宿で文化活動が継続されていたことを示す資料です。後者は、明治二三年（一八九〇）に建てられたもので、森鴎外の師である佐藤元萇が千住宿の歴史を撰文しています。

「元宿堰稲荷神社煉瓦造本殿」（№一七）は、明治時代に造られたもので、煉瓦造りが盛んな足立区の地域的特性を反映したものです。

「千住火力発電所設備図面および関連資料　付、『千住火力発電所記念アルバム』」（№一八）は、いわゆるお化け煙突に関連する資料です。科学技術史の面でも注目されています。

【有形民俗文化財】「千住大橋橋杭製火鉢」（№一九）は、橋杭を転用して造られた火鉢で、千住大橋の由緒が刻まれています。

「千住千組纏」（№二〇）の「千組」は、千組消防保存会（昭和二八年結成）が製作したものです。千住の火消文化の象徴となる資料です。

「掃部宿小型厨子（大山講神酒枠）および黒漆瓶子」（№二一）は、神奈川県伊勢原市の雨降山大山寺、不動明王・石尊大権現を信仰する大山講に関する資料です。

今回登録された二一件の文化財は、千住の文化や産業などの様子をいきいきと伝えてくれる資料ばかりです。より詳しい情報を、文化財ホームページに公開していますので、ぜひご覧ください。

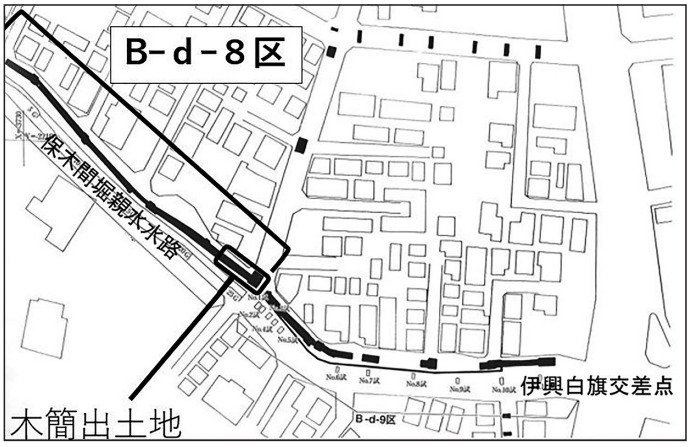
令和６年度　新規登録文化財（令和七年三月二一日付　教育委員会告示）

N０	名称・員数	種別
一	建部巣兆「吉野山桜竜田川紅葉図屏風」	登録有形文化財（絵画）
二	村越向栄「月次景物図」／つきなみけいぶつず	登録有形文化財（絵画）
三	狩野派粉本資料群／かのうはふんぽんぐん	登録有形文化財（絵画）
四	村越向栄「八橋図屏風」／　やつはしずびょうぶ	登録有形文化財（絵画）
五	村越向栄「白菊図屏風」／しらぎくずびょうぶ	登録有形文化財（絵画）
六	村越其栄「高砂図」／　たかさごず	登録有形文化財（絵画）
七	谷文晁・酒井抱一・他６名「高陽闘飲図巻」／こうようとういんずかん	登録有形文化財（絵画）
八	中野其豊「十二カ月農耕図屏風」	登録有形文化財（絵画）
九	扁額「鶴浯亭」／へんがく　かくごてい	登録有形文化財（書跡）
一〇	大久保家文書	登録有形文化財（古文書）
一一	横山家文書	登録有形文化財（古文書）
一二	石出家文書	登録有形文化財（古文書）
一三	福島家文書　付、福島憲太郎氏筆写・複写資料	登録有形文化財（古文書）
一四	中嶋家文書	登録有形文化財（古文書）
一五	松尾芭蕉句碑「物言えば唇寒し秋の風」	登録有形文化財（歴史資料）
一六	西森神社之碑／にしのもりじんじゃひ	登録有形文化財（歴史資料）
一七	元宿堰稲荷神社煉瓦造本殿／もとじゅくぜきいなりじんじゃれんがづくりほんでん	登録有形文化財（歴史資料）
一八	千住火力発電所設備図面および関連資料付、『千住火力発電所記念アルバム』	登録有形文化財（歴史資料）
一九	千住大橋橋杭製火鉢／せんじゅおおはしはしぐいせいひばち	登録有形民俗文化財
二〇	千住千組纏／せんじゅせんぐみまとい	登録有形民俗文化財
二一	掃部宿小型厨子（大山講神酒枠）　および黒漆瓶子／かもんじゅくこがたずし　くろうるしへいじ	登録有形民俗文化財

はい、文化財係です ㊽

伊興遺跡出土の木簡（もっかん）上

足立区埋蔵文化財包蔵地に指定されている伊興・谷下（やじった）・狭間（はざま）遺跡（以下、伊興遺跡）で、平成七年（一九九五）六月～平成八年（一九九六）三月に発掘調査が行われ、四点の木簡が出土しました。平成十一年度に東京都指定有形文化財にも登録



（図1）平成七年度発掘調査区（一部抜粋）

された、これらの木簡についてご紹介いたします。

【平成七年度発掘調査】

伊興遺跡公園北側道路に沿って保木間堀親水水路整備工事が行われることを受け、平成七年六月～平成八年三月にかけて発掘調査が行われました。調査範囲は氷川神社交差点から伊興白幡交差点にかけて、既に下水道工事に伴う調査で設定されていたＢ－ｄ－５～Ｂ－ｄ－９区までの調査地点南側で調査が行われました。この調査では、これまで確認できていなかった祭祀遺構の確認とともに、古墳時代から江戸時代にかけての遺構、遺物が確認されています。

この調査で最も注目を集めたのが、Ｂ－ｄ－８区です。（図１）平成七年度の調査では、井戸枠に船の部材を転用した、古墳時代の井戸が出土しました。井戸底からは土師器壺（はじきつぼ）や坏（つき）、須恵器甕（すえきはそう）が見つかり、古墳時代の伊興遺跡でも船が用いられ、交易や漁撈（ぎょろう）の拠点として機能していた可能性が浮き彫りとなりました。

【出土木簡】

今回ご紹介する木簡も、Ｂ－ｄ－８区から出土しました。以下四点をご紹介いたします。

・紀年銘木簡（二四・六×三・八×〇・四（㎝）、スギ材）（図２）

上端左側と下部の欠損がみられますが、短冊型の形状をしていたと考えられます。また、上部に焼け焦げた跡が残っています。表面にわずかな墨跡が確認できることから、文書木簡と推測されます。左下部には「延暦十七年七月廿（にじゅう）四日」の記述があり、七九八年の木簡であることがわかります。紀年銘木簡とともに出土した、墨書土器をはじめとする遺物は八～九世紀のものと考えられ、これらは木簡の年代を裏付けるものとなっています。古代、文書木簡は主に下級官僚の間で伝達や帳簿のために利用されていました。伊興遺跡においては、後述する出土木簡との関連性を考えると、祭祀に用いられた可能性も否定できません。

・「騎馬像」木簡（一八・九×五・九×〇・八（㎝）、ヒノキ材）（図３）

下端が欠損した状態でみつかりました。上下２体の騎馬像（きばぞう）が描かれています。馬上の人物は幞頭（ぼくとう）をかぶり、弓矢を携えています。幞頭は成人男子の髻（もとどり）を覆い包む布帛製（ふはくせい）のもので、唐からもたらされ、官人を表す被り物になりました。

この騎馬像を見ると、馬の前脚が折れ曲がり、幞頭から後方にのびた、纓（えい）とよばれる紐がたなびくように見えます。これらの様子から、この騎馬像は疾走した様子を描いていると読み取れます。

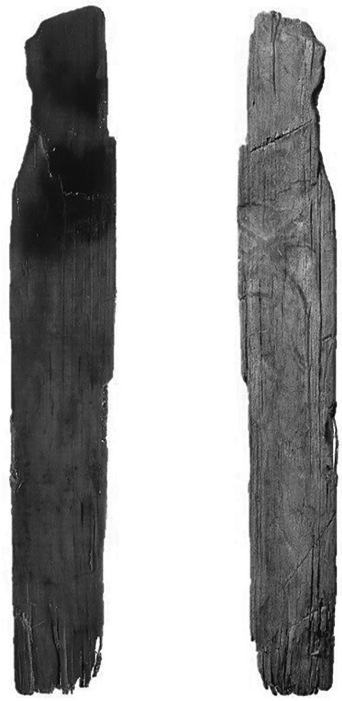
古代日本で騎馬像に関する資料は、正倉院宝物に例を見ることができ、それらはササン朝ペルシアの影響を受けたものとされています。伊興遺跡の騎馬像とは被り物に類似性を見ることができます。

一方騎馬像全体の姿は、高句麗墳墓に描かれた壁画に類似しています。馬が疾走する様子や弓を持つ様子、矢を入れる胡籙（やなぐい）を腰に携えている点が、共通して挙げられます。

木簡は通常、記録や荷札用などに使用されたものが多く出土していますが、騎馬像木簡はほかの出土遺物との共伴関係から、馬にまたがる官人を神格化し、災厄除けなどの「木札（もくさつ）」として、祭祀に用いられたものではないかと考えられています。全国的に騎馬像木簡の出土例はなく、きわめて珍しいものといえます。

（つづく）

（図２）紀年銘木簡
（左）表側　（右）裏側



（図３）「騎馬像」木簡
（左）表側　（右）裏側

お化け煙突60年追録 ⑤ 空襲

格和 宏典

千住の飲み屋さんでよく質問されたのが、「発電所はなぜ破壊されなかったの？」ということでした。

筆者も調べたことがなく、文献なども見た記憶がありませんでしたので、お客さんに逆質問して推測で回答を貰いました。

■煙突が侵入目標だった？　富士山や群馬県高崎市の高崎白衣大観音（昭和十一年建立）も目標物だとの説を聞いたことがあります。下町に聳え立つお化け煙突は、格好の進路目標物であったのかも知れません。

■機器等がアメリカ製だったから？

発電機がアメリカ製で自国製品を壊すのは忍び難かったからという説も出ましたが、東京電力「関東の電気事業と東京電力」によると、『鶴見火力と潮田火力は、夫々3回の戦災を受けて運転不能になり、このうち鶴見火力は、昭和二十年八月一日にかけて合計一〇三か所に被弾し、大打撃を受けた』とあります。

この鶴見火力の発電機は、アメリカのウェスチングハウス社製だったのですが、自国製であっても容赦なく爆撃したようです。

このことから、この説は信じがたいと思います。

■日本復興に活用？　アメリカは日本の敗戦を予測していたと思われ、そのため、戦後の復興には電力が欠かせないことから、発電所を温存するため爆撃しなかった。との説です。

確かに電気が無ければ何もできません。先行き見通すアメリカなら、鶴見や潮田火力を爆撃せず温存するはずです。

この説も信じがたいと思います。

■本館付近は爆撃せず　姫野和映著・お化け煙突物語によると、「昭和二十年四月十四日午前二時頃から空襲が始まり、千住、荒川、王子など、東京の城北部が襲われた。

千住火力発電所は、社宅の大部分、隣接の樺太石炭（株）の事務所、倉庫などが焼失し、数人の犠牲者が出た。構内の五千トン地下揚水タンク上に焼夷弾一発が落ちたが、燃え上がっただけで済み、発電所本館とその周辺は被害が無かった」という事です。

姫野さんは筆者の先輩で、実際に空襲を体験したということですから間違いないと思います。

筆者は、軍需産業の部品などを作っている東京下町の家内工業の木造家屋が標的になったとの説を聞き、これが事実ならば、構内への爆弾は地下揚水タンクへの焼夷弾一発だけとのことですから、火災となり得る貯炭場あるいは正門反対側の千住龍田町一帯を狙った際、着弾地がズレた可能性もあります。また貯炭場と社宅の間の灰捨場が防火帯となったり貯炭場への延焼をくい止めたのかも知れません。本館や煙突は頑丈な造りであり、焼夷弾程度で破壊は出来ないことから、爆撃を行わなかったものと推測します。

読者の皆さんはこのいろいろな説、どうお考えになるでしょうか。

■足立区の空襲被害

「絵で見る足立年表」によると、「罹災住宅一万一千五百六十二戸、死者三百三十三人、重傷二百五十六人、軽傷二百二十九人を数え、区役所、税務署、大和化繊、青物市場および病院五、診療所八十七が被災した。

空襲は焼夷弾であり、木と紙で作られた日本家屋には、隣組の消火活動など全く無力であった。

区内で特に被害が大きかったのは、三月九日～十日と四月十二～十四日にかけての空襲だった」とあります。

（元千住火力発電所）

下町への空襲について

足立区立郷土博物館

東京は昭和一九年～二〇年に、一〇〇回以上の空襲を受けます。なかでも二〇年三月一〇日の東京大空襲、足立区では、四月二三日と四月二五日に大きく被害を受けました。米軍の日本本土に対しての空襲作戦は、日本に対する緻密な調査と研究により実行され、人口の多い下町木造住宅地と、点在する軍需工場、鉄道、鉄橋などを狙ったもので、延焼効果を上げるため当日の風速予報なども考えられていました。焼夷弾投下は、ポイント攻撃ではなく、段階的に指定区域を定めた無差別焼夷弾攻撃でした。

また、空襲被害を免れた建造物には、当時からその理由についていろいろと人々の間で語られることが多く、その時代の価値観や地域観、人々の志向性を表すものとして伝えられています。